

タイトル（〇〇〇バイオマスタウン構想）

1. 提出日 平成 年 月 日
2. 提出者（連絡先） 〇〇市〇〇課
担当名、住所、電話・FAX 番号、メールアドレス
注）担当名以下については、公表しても差し支えない
範囲で記載。
3. 対象地域
市町村名（複数市町村や市町村一部の場合はその旨明記）
注）市町村の一部地域のみを記載する場合は、経済的、社会的、地理的なつながり
を持ち、地域の関係者が協力して、地域社会全体で総合的かつ効率的にバイオマ
スを利活用が進められる範囲であって、市町村が最適な地域であると判断する場
合に限る。
4. 構想の実施主体
例）〇〇市（必須）
NPO 法人〇〇、〇〇大学、〇〇農協（〇〇市が必要と認める団体）
注）市町村以外を記載する場合には、バイオマスタウン構想の策定に共同して携わり、
構想の実現に向けた取組に責任を持って関わる主体を記載。
5. 地域の現状
経済的特色： 主産業、バイオマスの流通形態、地域の経済動向 等
社会的特色： 地域社会の成立ち、交通事情、環境に関わる取組や課題 等
地理的特色： 面積、人口、土地利用の割合（農地、林地、宅地等）、気候的特色 等
行政上の地域指定： バイオマスの利活用に関連して、何らかの法律等に基づく行政上
の地域指定を受けている場合はその旨を記載（特区等）
6. バイオマスタウン形成上の基本的な構想
 - （1）地域のバイオマス利活用方法
 - ・ 地域のバイオマスの収集・輸送・変換・利用の各段階の取組内容・方法や導入技術
 - ・ 定量的なバイオマスフローやエネルギー収支などの利活用の全体像
 - ・ 施設整備が必要になる場合は、規模等のその施設の概要
 - ・ 変換に伴って発生する残さがある場合はその処理方法
 - （2）バイオマスの利活用推進体制
 - ・ 地域の協議会等の推進体制
 - ・ 関係者間の役割分担（コストや役務の負担、施設運営主体等）
 - （3）取組工程

- (1) (2) で記述した利活用の仕組みを完成するまでの大まかなスケジュール
 (4) その他

その他特記すべき地域の構想があれば自由に記載

注) 位置図や図面等を必要に応じて添付。

7. バイオスタウン構想の実施により期待される利活用目標及び効果

(1) 利活用目標

バイオマスの利活用目標 (例 : 廃棄物系バイオマス利用率〇〇%) を記載。

(2) 期待される効果

バイオマスの利活用を通して期待される経済効果、環境面での効果、その他地域の活性化につながる効果を記載。

8. 対象地域における関係者を含めたこれまでの検討状況

- ・ バイオスタウン構想の策定や構想の中の具体的取組内容の検討経過
- ・ 従前の取組からの改善点

9. 地域のバイオマス賦存量及び現在の利用状況

賦存量、変換・処理方法 (利用せず処理する場合も含む)、仕向量、利用・販売、利用率について、廃棄物系バイオマス、未利用バイオマス、資源作物の欄に分け、家畜排せつ物、食品廃棄物、製材残材、建設発生木材、下水汚泥、林地残材、稲わら、もみがら等の別に記載。なお、それぞれの量は年間累計とする。

例)

バイオマス	賦存量	変換・処理方法	仕向量	利用・販売	利用率
(廃棄物系バイオマス)					
食品廃棄物					
家畜排せつ物					
(未利用バイオマス)					
稲わら					
もみがら					
(資源作物)					
とうもろこし					

賦存量、仕向量の単位や計算方法等についての注釈があれば、この欄に付す。

注) 表の記載については以下の点に留意。なお、記載に当たっては、必要に応じ行数を増やす。

・バイオマス

バイオマスの種類を記載。種類の分け方は、利用の実態に応じ細分類 (発生源別等) を記載することも可。その他、地域の特性に応じバイオマスの種類を記載。

・賦存量

湿潤量 (kl、 t / 年) を記載。

・変換・処理方法

乾式メタン発酵、炭化、直接燃焼、肥料化、飼料化等の変換方法を記載。また、利用せずに処理している場合には、処理方法を記載。

・仕向量

変換・処理方法に対応する仕向け量を湿潤重量 (kl、 t / 年) で記載。

・利用・販売

例えば、変換方法がメタン発酵であれば、発電、熱供給、農地還元などを記載。

・利用率

利用への仕向量の賦存量に対する割合 (%) を記載。なお、 の欄の利用率の算出は、下記のとおり、炭素量換算にて行う。含水率や炭素含有率については、バイオマス情報ヘッドクォーターに参考情報を掲載。

バイオマス A の炭素換算賦存量、炭素換算利用量を、
炭素換算賦存量 (炭素換算利用量) A = 湿潤重量 A × (1 - 含水率 A) × 炭素含有率 A
により求め、

利用率 = (炭素換算利用量 A + 炭素換算利用量 B + ...) / (炭素換算賦存量 A + 炭素換算賦存量 B + ...)

10. 地域のこれまでのバイオマス利活用の取組状況

(1) 経緯

域内の取組主体のこれまでの活動状況や課題の概要。

(2) 推進体制

これまでの地域のバイオマス利活用の推進体制 (協議会等)。

(3) 関連事業・計画

過去にバイオマスの利活用に関連する国の事業に取組んだ実績がある場合には、実施時期、事業名を記載。また、既に関連する計画策定等を行っていればその旨も記載。

(4) 既存施設

既存の利活用施設がある場合については、処理量、利用技術、製品・エネルギー供給量等の基本的な施設情報を記載。